行動概略

7月2日　空路／大阪～（北京）～上海
4日　上海日本総領事館（山口領事他）へあいさつ。
空路／上海～ウルムチ
5日　ウルムチ市内観光
6日　空路／ウルムチ～カシュガル
7日　荷物整理　ポンプを忘れてきたことに気づく。
8日　カシュガル市内観光
陸路／カシュガル～ヤルカンド
ヤルカンド川偵察
出発地点の確認，水量は８９年の偵察時より多い，６月上旬に、上流で大雨が降ったそうだ。
9日　出発　（山田，土山）（三浦，山本）（王星，王勇）
河幅５００ｍ～１ｋｍ，川筋は３～５本ぐらいあり本流を見分けるのに苦労する。また水の色が黄土色をしているので日本のように深浅を見極めるのが難しい。
出発２時間後、（山田，土山）艇と（三浦，山本）（王星，王勇）艇が離れ離れになり、互いの姿を見失う。
90km
山田，土山：流域のウイグル人の家に泊まる。
三浦，山本，王星，王勇：河岸でビバーグ。
10日　山田，土山はウイグル人の通報によりきたヤルカンドの公安の尋問を受け、パスポートを取り上げられる。（未開放地区の家に無断で宿泊したため）
22:00 ごろ合流する。
11日　メゲチ着
地元公安の尋問
12日　王星，山田，土山、ヤルカンドの公安局に出頭
ヤルカンド公安局の尋問
13日　パスポートが返却される。
他隊員もヤルカンドに戻ってくる、その後全員カシュガルへ戻る。
14日　カシュガルの公安局、外事弁公室の尋問
15日　同上
16日　陸路／カシュガルーメゲチ
メゲチより航行再開　（山田，佐藤）（三浦，土山）（王星，王勇）
222km
このあたりにくると瀬はほとんどない、しかし相変わらず流れは

速い、時速８ｋｍ，１日４０ｋｍ。

20日 小海子ダム着　ダム手前２０ｋｍ地点でテント設営。
中国の地図はあまり正確ではない、予定よりはやく小海子ダムに到着。

21日 小海子ダム下流には水は流れていなかった。よってここから、歩かなければならないのだが、らくだも馬もいない。また、交渉時、５３団場に事前に用意するはずだったのに、中国側は用意していないという５３団場へらくだの調達にむかう。しかしらくだはおらず、かわりに馬の調達の交渉を現地のウイグル人とする。結局これも５３団場～３団場間の道がわからないというので断られる。

22日 陸路／小海子ダム～３団場（253km の行程を車で移動）
全員車で移動、３団場でらくだ又は馬を調達することにする。

23日 馬車１台、馬方兼ガイドのウイグル人１名を雇う。水、食糧の関係で中国側２名（陳、王勇）、日本側２名（山田、山本）、ガイド１名、計５名で歩することによる。
気温４０度以上、１日４０ｋｍ、馬車に全荷物を積み、ウイグル人以外の４名は歩く（ワジ沿いの道）。

135km

25日 予想以上に苛酷なので、１時間おきに２名交替で馬車に乗る。途中、道に迷う。昨日通過した鉄塔を今日も通過。

26日 １６団場、アクス川とヤルカント川の合流点に到着、補給部隊と合流

27日 休息日

28日 合流点～１０団場（山田，山本）（三浦，佐藤）（王星，王勇）
ここからタリム川となる。瀬は割合あって、波高０．３～１ｍぐらい、水量は偵察時より約１ｍほど多い。

80km

29日 １０団場到着

30日 休息日

31日 中国側協力隊員の王勇の実家にて。

8月1日 １０団場～公安農場　（山田，山本）（佐藤，土山）（王星，王勇）
河幅２００～５００ｍ、時速１０ｋｍ、あいかわらず瀬はある。
１日平均航行距離５０ｋｍ前後、河幅が広いので本流を見極めるのに苦労する。

170km

4日 公安農場到着

5日 公安農場～七場三隊　（山田，山本）（三浦，土山）（王星，王勇）
河幅５０～１００ｍぐらいに減る、時速８ｋｍ、瀬はない。１日平均航行距離４０～５０ｋｍ。

8日 休息日

9日　この日は１日中雨
　新疆でも日本なみの雨が降るようだ。ロプ麻を採るためにテント生活をしている漢民族３名のところで雨宿りをする。
10日　タリム油田への道路工作のための仮橋を通過する。
13日　休息日
14日　河幅３０～５０ｍ、時速６～７ｋｍ、１日平均航行距離４０ｋｍ。
600km　放牧地へ水を流すための用水路が多数あり、人家も１００～５００ｍごとに１軒の割合で出てくる。
　このころから全員疲労の色が濃いくなる。
17日　川が２本に分流する。
　川筋がはっきりしている北側の水路をゆく（８月22日にこの２本の水路は合流する）。
　河幅１０～２０ｍ、時速５～６ｋｍ、川の蛇行が激しい。
19日　休息日
22日　以前分流した水路と合流。
　河幅２０～３０ｍぐらいになる。
　七場三隊到着
23日　休息日
24日　近くの漢民族の家で夕食を御馳走になる。
　断続的に雨が降り、砂漠に虹がかかる。
25日　七場三隊～大西海子ダム　（山田，土山，山本）（三浦，佐藤）（王星，王勇）
　大きな砂丘が河岸にせりだしてくる。
28日　85km　中国人の乗ったカヌーが転覆。
　両岸に渡してある針金にひっかかため。
29日　大西海子ダム手前２０ｋｍ付近で航行終了とする。
　ダム湖に入ってしまうとカヌーや他装備を引き上げる場所がなくまた、ダム湖の水位がかなり低いので航行に支障が出るため。
30日　陸路／コルラ着
9月2日　陸路／ウルムチ着
12日　装備返送
26日　上海日本総領事館（山口領事他）へ計画終了のあいさつ。
30日　最遅者帰国